

始まりは3人の医師 2004年秋、金塚 東・篠宮正樹・栗林伸一の3人の内科医が集まり、増加する生活習慣病を根本的に防止するために活動しよう、と話し合いました。

- 1 生活習慣病の芽が子ども達にまでまん延
- 2 染みついた生活習慣をその個人で変えるのは難しい
- 3 医療者と市民の間で、知識や考え方にギャップがある
- 4 誤った健康情報や民間療法が巷にあふれている

この趣旨に賛同する多くの市民と医療者により、2005年NPO法人「生活習慣病防止に取り組む市民と医療者の会（愛称：小象の会）」を設立（右上 千葉日報の報道）。

医師・看護師・保健師・検査技師・薬剤師・栄養士・教員などの専門知識を持つ人達とともに、企業・民間団体や行政などで、多くの経験を持つ人達が大きな力を発揮。

会報・書籍・ホームページ 会報を年2回第36号まで発行中、「小象の糖尿病通信」を8号まで発行し毎年の「市民のための糖尿病教室」で配布。

ホームページで情報を発信。「小象の会」で検索か、右二次元コードから。

子ども達に親しめる形で、人間の身体の素晴らしさを伝えるため、小倉明理事（童話作家）と篠宮正樹理事長との共著により、2冊の童話を刊行し、新聞にも紹介されました。2冊とも千葉県課題図書に指定され、全国に普及しました。



2021年10～11月 専門医執筆による「コロナ禍の羅針盤—医療現場からの情報提供とアドバイス」を龍野一郎・千葉県立保健医療大学長と企画、千葉日報に連載、12月にブックレットとして7千冊作成して各方面に寄贈。

コロナ禍の羅針盤

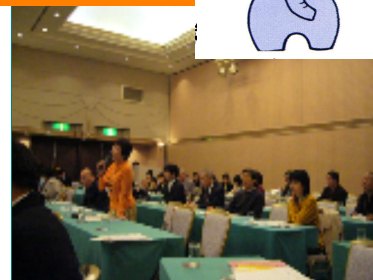
医療現場からの情報提供とアドバイス



企画・編集 千葉県立保健医療大学長 龍野一郎
NPO法人小象の会理事長 篠宮正樹

協力 千葉日報社

推薦 千葉大学医学部附属病院 内閣府 橋本幸太郎



フォーラムの開催 市民が知りたいテーマを選び、会の趣旨に賛同する医療者を講師に迎えて年2回の小象フォーラムを計27回主催。



ロッテ球場での啓発活動 球場で直接市民とかわかれる活動。資料配布や簡単な体力測定、医師による健康相談、メインスクリーンでの広報などの活動をしました。



出前講座・講話 役員・会員が直接、小中学校・会社・事業所に出向き、「人間の身体の素晴らしさを知り、自尊感情を高めること」の必要性を講演。



千葉日報紙上での連載 2018年から、生活習慣病について読者に語りかける「小象の 元気！で行こう」を2年間 70回連載。2021年3月に書籍として3千冊を刊行、各方面に寄贈。千葉県立高校の道徳教材集で紹介され、書籍の第3話と第70話が掲載されました。国立国会図書館にも収蔵されました。

『小象の 元気！で行こう』『コロナ禍の羅針盤』は千葉県医師会などの県内諸医療団体役員・医療系大学生、全ての千葉県立高等学校・特別支援学校、全ての千葉市立小中学校・特別支援学校・公民館などに寄贈しました。

2023年1月2日と9日、ニッポン放送ラジオ『阿部亮のNGO世界一周！』に出演、小象の会の活動を紹介しました。右の二次元コードから放送をお聴き下さい。放送日順に番組が探せます。



事務局

e-mail naika@2427.jp

電話 043-263-1118

FAX 043-265-8148

活動をご支援ください！

役員（50音順）

理事長	篠宮正樹	栗林伸一	中野英昭
副理事長	柳方絢子	梅宮敏文	小倉明
理事	内田大学	高橋信一	高柳佐土美
	古市雅雄	柳澤葉子	田代 淳
	櫻井義人	蛭田 隆	田所直子
監事	金塚 東	齋藤 康	高橋金雄
顧問			萩原 博

生活習慣病防止に取り組む市民と医療者の会（愛称 小象の会）